



大森六中だより

令和7年 10月号
大田区立大森第六中学校
統括校長 菅野 哲郎
TEL 3726-7155

功を立てる

AIが生活の様々な場面で活用されるようになりました。インターネットで「○○とは？」と検索すると、筆頭にAIが情報をまとめた文章が目に入ります。AIはネット上のあらゆるサイトから関連する情報を瞬時に寄せ集め、資料を作り上げます。

しかし、その元となるサイトのすべてが信頼できるものとは限りません。ちなみに「AIとは？」と検索すると、「人間が処理しきれない大量のデータを高速に処理し、分析することで、新たな知見を得たり、複雑な問題を解決したりします」などの文章が示され、その後に医薬品の注意書きのように小さなフォントで「AIの回答には間違いが含まれている場合があります」と記述されています。

したがって、あくまで参考にするにとどめ、自分が引用したい文章は、示されている関連リンクから公的機関のサイトに掲載されている文章であることを確認しましょう。そしてその際は、「○○から引用」と補足しましょう。

*AIの活用は受験生にとって必要不可欠になっているようです。3年生はこれから都立高校の入試に向けて「自己PRカード」を作成することになりますが、その筆頭に「志望理由」があります。大学でも推薦入試の場合、1次選考で「志望理由書」があります。合格者の志望理由書を見ると、自分の体験と学びがどうつながって



六中だよりは HP からも
ご覧いただけます。



いるか、例えば「地域医療に关心を持ったきっかけが祖父の介護体験にあった」や、「高校での探究活動を通して社会課題を実感した」など、経験から思考へ、思考から志望へと流れるストーリーが明確だそうです。ところが、この一貫性を言語化するにはかなり時間もかかり、技術もいります。そのため、志望理由書の作成に生成AI (ChatGPTなど) を活用する受験生が増えているそうです。

しかし、ChatGPTを多用しすぎる受験生も、全く使わない受験生も、どちらも不合格になりやすいそうです。そもそもの前提として、多くの学生が高校3年生になってから志望理由書のために”実績を作ろう”と慌てて活動を始めていたかが知られています。高1・高2から地道に活動実績を積み重ねていないと、AIで形を整えても中身が伴わない志望理由書になってしまいます。一方で積み重ねがあった上で、それを整理するためにはChatGPTを使うことはかなり有効な手段となります。逆に使わないと不利になります。中学生の皆さんには以上の文章を高校を中学に読み替えて参考にしてください。

最近は生成AIを悪用した事件も報道されるようになっています。科学技術の進歩は常に功罪併せ持っています。持続可能な社会を創造する皆さんには、功のために活用する事を期待します。

持続可能な社会の担い手づくり

大田区立大森第六中学校 研修ユネスコ委員会

防災教育プログラム

10月1日（水）の校内研修会では、『避難所にて』という教材で第2学年の道徳授業を行いました。

内容項目 A-(2)節度、節制では「望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をすること」について自己を振り返ります。災害発生時に避難所生活をおくる登



場人物の心情から、身に付けた生活習慣を維持することの難しさと大切さに気づかされる教材になっています。導入と終末では災害関連死についても考え、防げる死・守れる命についても話し合いました。

第2学年では、この後防災学習として社会科見学を行っています。“共助”をテーマとして学習を行いますが、まずは心身の調和のとれた基本的な生活をおくり、自身の健康を守ることができないと、有事の際に互いに協力し合うことはできません。様々な学びやそれを通して気づいたことが、今後の地域社会での生活に繋がって行くことに期待しています。

今月の行事報告

後期生徒総会

10月10日（金）に後期生徒総会が開催されました。はじめに前期委員長からの活動報告があり、その後、握手を交わして後期委員長へとその権限をつなぎました。後期委員の任命式に続いて、

各委員長から活動計画の説明や議案書討議であがった質問・要望への回答が行われました。後期の活動からは、3年生に代わって2年生を中心となって活動していくきます。緊張の中でも堂々と壇上で話す委員長の姿に、六中のこれからを担おうとする頼もしさを感じました。今後も生徒一人一人が生徒会の一員としての自覚を持ち、よりよい六中を作ろうと活躍していく姿に期待しています。



2年 社会科見学

2年生は10月9日（木）に社会科見学を実施しました。午前中は池袋防災館へ行き、AEDを使った救急体験、東日本大震災の揺れを再現した地震体験、火災時に発生する煙の中を避難する煙体験、初期消火を学ぶ消火体験という4つのプログラムに参加しました。午後は学校に戻り、まちなか点検を行いました。自分たちが住んでいる地域を防災の視点で巡り、その地域の強みや弱みを探して、

事故を未然に防ぐまちづくりについて考えました。作成したマップは学習成果発表会での展示を予定しています。ご協力いただいた自治会・町会の皆様、田園調布消防署雪谷出張所町田所長様、田園調布消防団の皆様、ありがとうございました。

